



子どもたちの 「何で？」 「やってみたい」 を引き出す！



講義

京都府教育庁指導部学校教育課
指導主事 福知泰輔

(講義内容)

・今後求められると推測される力(問題発見、的確な予測、革新性)より、何故、課題解決型の学習(PBL)を進めることが大切かについて。

- ・普段の何気ない変化にいかに気づけるか。身の回りの変化に着目し、「問題を発見する力」の育成について。
- ・教科において、どのように課題解決型の学習(PBL)の手法を生かしていくかについて。

中学校授業力向上プロジェクト

舞鶴市立城南中学校 アドバイザー 笹鼻邦彦 教諭

複数の教科において、子どもたちの主体的な学びを生み出すヒントを具体的に発表いただきました。子どもたちの興味・関心に着目した課題の提示方法や子ども同士の学び合いとなるよう教師がコーディネートする実践等、改めて教師の役割について考える機会となりました。

令和4年度学力充実会議 令和4年10月4日(火)開催

～「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けて、
各教科における課題解決型の学習の手法を生かした
授業改善について考えました～

中丹地域の小学校・中学校の研究主任を対象に、令和4年度学力充実会議を開催しました。児童生徒が各自の課題に向けて主体的に学ぶために、課題解決型の学習の手法を生かした授業改善について講義・研究実践を通して協議しました。

グループ協議では、課題が自分ごととなるための目的意識を持たせる活動、そのための明確なゴール設定と評価設定の共有等、授業づくりにおいて大切にしたい視点が多く出されました。



子ども同士をつなぐ 教師の役割



研究発表

振り返りで書く内容 を想定した授業づくり

小学校理科授業力向上プロジェクト

綾部市立綾部小学校 アドバイザー 石田航 教諭

子どもたちの学びにストーリーを持たせ、活動への意欲や目的意識を持たせること、子どもたちの思考を見える化し、思考の変容を確かめること等、子ども目線での授業づくりを発表いただきました。

特に逆向き設計により、児童に振り返りでどんなことを書いて欲しいかを事前に考えて、授業の発問や流れを作っていく実践では、授業準備、単元構想の大切さについて再確認しました。



協議

・現状把握・目標の確認をきちんと行うことで問題が見えてくるというお話で、普段の学習ではその部分を飛ばしてしまい、いきなり教師からの問いを投げかけるという場面が多いのではないかと反省した。

・「未来人材ビジョン」の2050年に身につけておきたいスキルを見てドキッと思いました。どんな非認知能力を育みたいか教師が持つておく必要があると思いました。

Q 研究発表からどのようなことを学びましたか。

・子どもが間違いを恐れず発言できるように、子どもの発言をありのままに受け止めることを心がけたいと思いました。また、発表する子だけでなく、発表を聞いている子の反応を見て、うなずいている子に「何か分かったの」と尋ねたり、難しそうなお顔の子には「何が分からなかったの」と尋ねたりすることで子ども同士の学び合いを深めたいと思いました。

・振り返りの時間が毎時間とれていない私の課題があるので、理科の実践は大変参考になった。3分程度の時間で、子どもたちが学習を振り返り、次の学習への道すじを持つことができるように、こちらがどんな振り返りを書いて欲しいかを持った上で授業を作っていきたい。

Q 本日の会議での学びを、自校でどのように生かそうと考えますか。

・PBL型の授業の良さや必要性を実感できる校内研修を実施していくことが大切。自身の授業の振り返りと授業改善へと向かわせるような研修になるように、PBLを体験する模擬授業も考えたい。

・教員同士の実践交流や授業公開を通して、普段からお互いに学び合う機会を持ちたい。

参加者の 振り返りより

Q 講義からどのようなことを学びましたか。

check!

あなたの授業は

いくつ当てはまりますか？☑

- ☐ 子どもが学ぶ意義や解決する必要性を感じる課題の設定がある。
- ☐ 子どもたちの学びが、PBLのプロセスを生かして(個々の)課題を解決する学習過程となっている。
- ☐ 子どもと教師とでゴールの姿を共有し、子どもが成長を実感でき、次につなげられる振り返りの場面設定がある。
- ☐ 単元で育成を目指す資質・能力と評価規準を明確にし、それらを意識した指導を単元を通して行っている。
- ☐ 教師が子どもの学びを支援するファシリテーターとしての役割を担っている。

子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するために大切な視点として学力充実会議の中で提案しました。